



## ④ 社会との協調

社外ステークホルダーのご意見

野焼きは、危険を伴い地域の経験者も高齢化しているため、後継者育成はとてもよい活動

➡ P.35~36

くじゅう坊ガツル湿原での環境保全活動

# 1. くじゅう坊ガツル湿原<sup>ぼう</sup> ー帯における環境保全活動

## くじゅう坊ガツル湿原での環境保全活動

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた高原性湿原(約53ha)です。多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することから、2005年に国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

当社は、坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、環境省や竹田市、「九重の自然を守る会」など、地域の方々との協働により、長年途絶えていた野焼き活動を2000年に再開しました。現在は、九電みらい財団(2016年5月設立)が中心となり、野焼き活動のほか、外来種駆除活動や隣接する平治岳(当社所有地)のミヤマキリシマ植生保護活動などの環境保全活動を行っています。

九電みらい財団のホームページはこちら

### 【野焼き活動】

かん木や雑草が生い茂ることを防ぎ、植物の新しい芽立ちを促すことで、湿原の環境を維持する野焼き活動を実施しています。

野焼き時の周囲への延焼を防ぐ防火帯を準備する「輪地切り」と「輪地焼き」を毎年8月から9月にかけて実施し、翌年3月に湿原全体に火をつける「本焼き(野焼き)」を行います。

2016年度は、地域の方々や当社グループ社員と家族などのべ414名のボランティアの方々に参加いただきました。



輪地切りの様子



本焼き(野焼き)の様子

### 【活動の充実に向けた取組み】

九電みらい財団では、野焼き活動の指導者が、今後不足するおそれがあるため、2016年度から九州電力グループ社員を対象に野焼き活動の担い手となるリーダーの養成研修を行っています。この研修は、草刈機の扱い方などの実技指導と活動の経緯や安全講習などの座学で構成されており、初年度は約30名の九州電力グループ社員が受講しました。



実技指導



安全講習等の様子



### 私の環境アクション

ふるさとの山々のために、  
今できることを

配電本部 配電教育グループ

さとう たけとし  
佐藤 剛敏



熊本地震後、ボランティアとして入った阿蘇の山々に残る爪痕を目の当たりにし、深く心を痛めました。この故郷九州の山々のために今できることはという思いから、2017年2月、「坊ガツル野焼きリーダー養成研修」を受講し、同年3月には実際の野焼き活動に参加しました。

その中で、「人が手を加えることによって守られている自然がある」ということに気付かされ、長年この活動に取り組まれてきた方々の思い、そして実践する姿に触れることができました。自然の大きな営みの中で、謙虚に、そして地道にこの活動の一員としてこれからも取り組んでいきたいと思ひます。

また、私は現在、社員研修所で新入社員教育等に携わっていますが、この思いを若手社員にもしっかりと伝えていきたいと思ひます。

### 用語集をご覧ください

- ラムサール条約
- 生態系

## 【外来種(植物)駆除活動】

湿原の生態系を維持するため、外来植物を手作業で根ごと抜き取る作業を行っています。

2016年度は、8月7日に実施し、当社社員や家族を含む88名のボランティアの方々に参加いただきました。

また、作業終了後には、参加者を対象とした自然観察会を開催しました。



外来種駆除活動



自然観察会

## 【ミヤマキリシマの保護、登山道整備活動】

ミヤマキリシマ(大分県準絶滅危惧種)の植生に支障となる木(ノリウツギ等)を伐採し、生物多様性を保全するための活動を実施しています。

また、山の草花が踏み荒らされたりしないよう登山道の整備も行っています。

2016年度は、11月3日に実施し、当社社員やOBを含む73名のボランティアの方々に参加いただきました。



支障木の伐採



登山道の整備

## 2. 次世代へのエネルギー・環境教育の展開

「九電みらいの学校」\*の一環として、エネルギー・環境への関心を育む活動を、九州各地で展開しています。

\*:エネルギー・環境教育をはじめ、文化・芸術・スポーツの分野において、様々な活動を行う次世代支援プロジェクト。



詳細は [九州電力](#)  
> 関連・詳細情報 (P2参照) > 九電みらいの学校

### エコ・マザーによる環境教育支援

子どもたちへの環境教育支援と保護者の皆さまへの環境情報の提供を目的とする「エコ・マザー活動」に取り組んでいます。

この活動では、九州各地で地域のお母さま方が「エコ・マザー」として保育園などを訪問し、環境紙芝居の読み聞かせ等を行い、小さなお子さまに環境への配慮の大切さを伝えています。

2016年度は253回、20,084名のお子さまや保護者の皆さまにご参加いただきました。

なお、これまでの14年間で、約3,400回実施し、約24万名の皆さまにご参加いただいています。



エコ・マザー活動の様子



詳細は [九州電力](#)  
> 関連・詳細情報 (P2参照) > エコ・マザー活動

### 用語集をご覧ください

- 絶滅危惧種
- エネルギー・環境教育

社外ステークホルダーのご意見

電力について、もう少し子どもたちに伝わるイベントや出前授業を増やして欲しい

➡ P.36 次世代へのエネルギー・環境教育の展開

➡ P.37 小・中学校等での出前授業

## 小・中学校等での出前授業

エネルギー・環境問題などについて、楽しみながら学んでもらうことを目的に、九州各地で出前授業を実施しています。2016年度は、小・中学校等で479回の出前授業を実施し、約19,000名の子どもたちとエネルギーや環境について考えました。



出前授業の様子



私の環境アクション

子どもたちの歓声にやりがいを感じました！

奄美配電事業所  
託送業務グループ  
さとう しょうへい  
佐藤 昭平



2017年2月、鹿児島県大島郡龍郷町立円小学校にて、全校児童7名を対象に、「電気と省エネを勉強しよう!」をテーマに掲げ、出前授業を行いました。

私にとって2度目となる出前授業の講師でしたが、対象となる児童が2年生から6年生までと年齢差が大きかったことから、低学年の児童にも理解できるような説明を行うことに苦慮しました。

子どもたちは、授業が始まる前から、机に置かれた実験器具に興味津々の様子で、授業が始まってからも積極的な質問が飛び交いました。

その純粋な眼差しや実験結果に対する大きなアクションを見るたびに、授業の準備やリハーサルの苦労が喜びに変わりました。

今後も、エネルギーや環境に興味を抱いてもらえるような取り組みを積極的に実施していきたいと思っています。

## 3. 九州ふるさとの森づくり

### 15年間実施してきた「九州ふるさとの森づくり」

「九州ふるさとの森づくり」は、2001年度から取り組んでいる植樹や育林活動\*で、低炭素社会の実現や生物多様性の保全を目的として九州各地で実施してきました。

2015年度でこの取り組みは一旦終了することとなりました。これまでの15年間で延べ642箇所、約117万本もの苗木を植樹し、約15万人の方々にご参加いただきました。

\*植樹した苗木の成長を助けるため、植樹後3年程度、苗木の周りの下草刈りを行う活動。



詳細は [九州電力](#)

> 関連・詳細情報 (P2参照) > 九州ふるさとの森づくり



2001年の植林の様子(大分県日田市)

10年後



10年後の植林地点の様子

用語集をご覧ください

- 低炭素社会
- 生物多様性

## 4. 環境月間における取組み

毎年6月の1か月間は、「環境月間」として全国で様々な行事が実施されています。当社においても、環境コミュニケーションを推進するための諸行事を展開しており、2016年度は、「きゅうでん環境月間エコチャレンジ2016～つたえよう！私たちの思い、地域とともに～」をテーマに、地域の方々との協働による活動や、次世代への環境教育などを九州各地で実施しました。

詳細は [九州電力](#)  
 > 関連・詳細情報 (P2参照) > 環境月間

社外ステークホルダーのご意見  
 子どもたちへの環境教育に  
 力を入れてほしい  
 P.38  
 次世代への環境教育

### 【地域の方々との協働による活動】

自治体等主催の清掃活動への参加や環境イベントへの出展、近隣公園への花植栽など、九電グループ一体となって地域の思いに寄り添い、地域とともに取組む活動を87事業所で実施しました。



佐賀城跡の門清掃活動（佐賀配電事業所ほか）

### 【次世代への環境教育】

地域の園児、小・中学生を対象に、環境やエネルギーに関する出前授業、芋掘り（苗付け）や鮎の稚魚放流体験など、次世代への環境教育を22事業所で実施しました。



幼稚園・保育園児による芋苗付けの様子（新大分発電所）



稚魚放流体験の様子（耳川水力整備事務所）

### 【省エネ・街頭キャンペーン】

街頭やお客さま対象の省エネ講座などにおいて省エネのご協力をお願いを62事業所で実施しました。

当社の省エネへの取組みとして24事業所でグリーンカーテンを設置しました。



グリーンカーテンの設置（福岡営業所）



#### 私の環境アクション

#### 「さつまいもの収穫体験」

ひよこのくにランド保育園  
園長

佐々木ひとみさま



保育園では、子どもたちへ生きる力の必要性を知り、身に付けていくための活動に取り組んでいます。年間行事として九州電力さんにご協力をいただき、さつまいもの苗付け、親子での収穫を体験しています。青空の下、広大な畑の上に立ち、土の色や感触、匂いを感じながら土の中から出てくるお芋に歓声をあげ、「見て見てお芋とれたよ。」と親子で喜びを共感し合い、子どもたちは土で真っ黒になった手を広げ満面の笑顔を見せてくれました。

収穫を通して子どもたちは、食卓に並ぶ食べ物へ「いただきます。」の意味を知り、料理すること、食べること、命の大切さへの思いがより強まり感謝していることでしょう。

今後も活動を通じて自然の大切さ、命の大切さを子どもたちへ教えていきたいと思えます。



#### 用語集をご覧ください

- 環境月間
- 環境コミュニケーション